

6. 工事執行者 熊本縣
7. 計畫設計者 熊本縣土木技師 樽谷萬治
8. 工事監督者 熊本縣土木技師 山下榮士
9. 施行方法 直營（浚渫工事を除く）
10. 起工年月 昭和7年11月
11. 竣工豫定年月 昭和10年3月

濱戸川改修工事概要

（本文に就ては會員枅井照藏君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。）

1. 箇所名並に工事種類

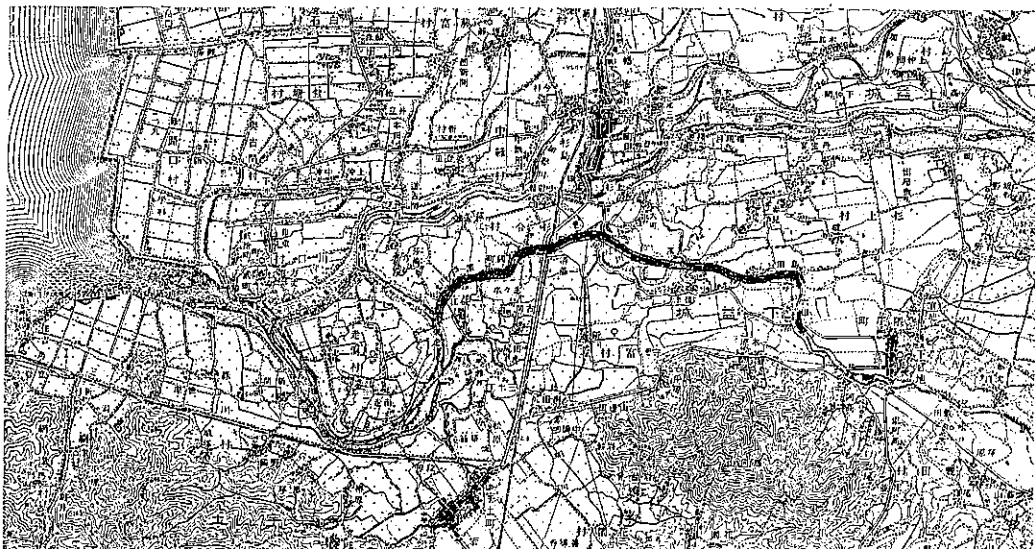
箇所名： 自 熊本縣下益城郡隈庄町大字下宮地
至 同縣同郡杉合村苅崎、碓江

工事種類： 濱戸川改修工事

2. 計畫概要

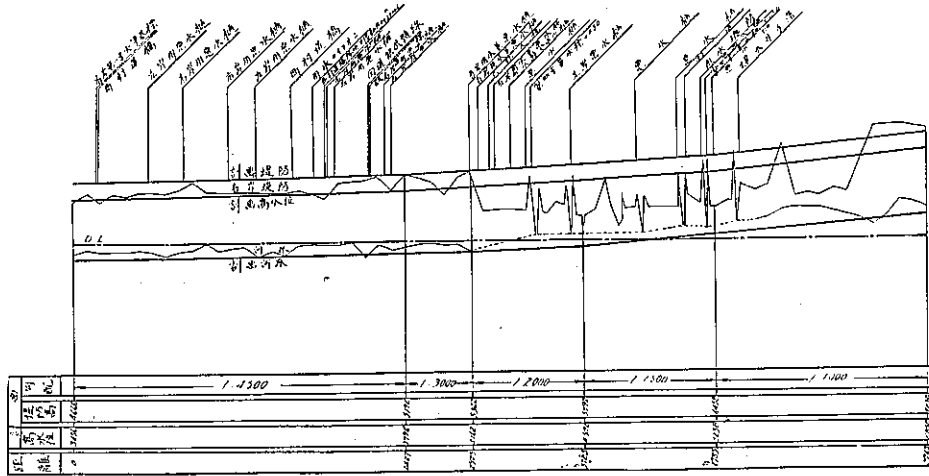
濱戸川は緑川支川に屬し改修起點は緑川改修工事に於て河川附替をなし廢川となる箇所にして緑川改修後は緑川新川下流口に於て再び緑川と合流することとなる、本川は源を下益城郡中山村に發し蜿蜒西流して豊野、豊田隈庄、杉上、守富の各村を經て杉合村に至る流域面積 5.62 方里を有し、その間氾濫し被害あるもの宅地 17 萬餘坪、田 1300 町歩、畑 100 町歩に達し洪水時は一面の湖水と化し道路の交通は杜絶し爲に産業の發展を阻害すること尠からず。

第 1 圖 濱戸川平面圖



河川勾配は約 1/2 000~1/3 000 にして川幅は極めて不規則にして最大 84m, 最小 27m となり, 兩岸貧弱なる土堤を有すると雖も殆んど原始的河川状態を示し, 兩岸には雑草木竹林繁茂し疎通能力を削減し, 水深亦不同にして點々甍洲を生じて淺瀬となり, 或は屈曲部下流は甚しき深掘をなし居れり。一朝出水に際しては破堤の厄

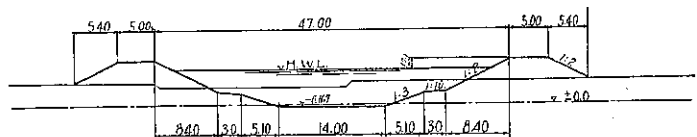
第 2 圖 濱戸川縦断面圖



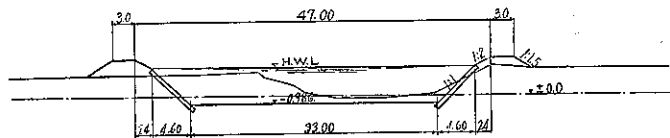
を免かれしめ且つ上流の 浸水位を低むる爲, 途中隈庄町地内に 3箇所の越流口を石張を以て設け一定の洪水位以上は兩岸に氾濫せしむる計畫となし居れり。

改修計畫に際しては本川と緑川との合流點に於ける緑川改修計畫洪水位高 3.456 m を河口に於ける計畫洪水位とし流量は最大時雨量 30 mm 及び實測既往洪水量とに基き最大毎秒 250 m³ とし, これを安全に流下せしむることとせり。縦斷勾配は 1/4 500~1/1 000 とし, 川幅は 56~40m, 堤防天端高は計畫洪水位上 1.20m, 天端幅は 3~5m とせり, 斯くして改修の結果總延長に於て約 3km を短縮して直流化し縦斷勾配を急にし得たり。然して前記水越と稱する越流口高は計畫洪水位高に大體一致せしめその構造物には何等加工せざる

第 3 圖 昭和 7 年度改修區域横断面圖



第 4 圖 昭和 8 年度改修區域横断面圖



第 5 圖 第 1 水越堰



こととせり。

3. 工 事 費

總工費 413441 圓

内 譯	勞 力 費	177 256 圓
	材 料 費	77 741 "
	用 地 費	138 779 "
	事 務 費	19 665 "

4. 工事執行者 熊本縣

5. 計畫設計者 7 年度分 土木技師 後 藤 安 之

8 年度分 同 小 引 掌

6. 工事監督者 7 年度分 土木技師 後 藤 安 之, 土木技手 松 下 巖

8 年度分 土木技師 小 引 掌, 土木技手 山 縣 義 介

7. 施工方法 請 負

7 年度分 森 本 組

8 年度分 岩 本 組

8. 起工年月 昭和 7 年 10 月

9. 竣工豫定年月 昭和 9 年 3 月

坪井川改修工事概要

(本文に就ては會員枅井照藏君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

1. 箇所名並に工事種類

箇所名： 自 熊本縣飽託郡清水村大字打越

至 同縣同郡高橋町高橋

工事種類： 坪井川改修工事

2. 計畫概要

坪井川は鹿本郡植木町及び飽託郡川上村立石より發し殆んど山間部のみを貫通して飽託郡清水村畠田に來り阿蘇郡瀬田村に於て白川より取水せる堀川なる用水路兼沿川流域内の排水路を合流南下して八景水谷の湧水を合せ熊本市寺原町田端を曲折して熊本市に至り、熊本城下を廻りて洗馬町に出て唐人町を過ぎ横手町にて支川井芹川と合し、石塘附近にて白川と平行し西方屈折して市外城山村に達し高橋町を貫流し小島村松尾村を経て百貫石港に到り島原海灣に注ぐ、その延長約 23 km、流域面積約 .86 km² なり。

仰も本河川現況は加藤清正公の遺跡に關するもの多く往時は水清くして舟行の便に供せられ地方の開発に資する所大なりと雖も時代の變遷と共に河床隆起し、熊本市の發達は漸次河水を汚染し塵埃汚物の堆積を促し流路の